

## 第二十回大會を迎ふ

茲に、我日本労働總同盟は、第二十回大會を迎ふる事となつた。思へば、過去二十年間我總同盟は日本労働運動の主流として、資本家階級の飽くなき搾取、不正義と戦ひ、労働階級の向上進歩の爲に、あらゆる犠牲を捧げた。又、我陣營内に於ては無政府主義、共產主義の清算克服を斷行して、確固不拔の基礎を打ち建てるべく努力し來つたのである。而して今や、その努力漸く報はれ、總同盟の内外にその方針が徹底し、實現しつゝあることは、何人も認めざるを得ないところである。

即ち資本家階級は、労働組合法の壓殺に狂奔し、形の上に於てはたしかに成功したのであるが、實質的に之を見れば、澎湃たる世界社會運動の大勢を前にし、底知れざる世界恐慌の怒濤に奔弄されて、彼等は正に神疲れ、氣衰へ、健實にして堂々たる日本労働運動の進出に對し、今後積極的妨害を行ふことは、恐らく不可能であらう。労働組合の戦線に就て見るも、労働立法促進委員会より、日本労働俱樂部へと進展し、左翼中間派の陣營は、一大崩壊過程を辿り、着々清算克服されつゝあるのである。

今や、世界及び日本の状態は、刻々、破局に向つて進行しつゝあるかの如く、極めて異常なる時代に入つた。昭和四年秋以來の世界的恐慌は、一時安定するかに見へたが本年に入つて獨逸を破綻せしめ、英國の金本位制を停止せしめ、再び猛烈に世界を襲ふに至つたのである。爲に各國の労働組合及び無産政黨は、歐洲大戰以來の大受難、大試練に遭遇